

「第11回 大月みらい協議会(人口問題・地域活性化を考える市民会議)」 会 議 概 要

日 時 平成28年2月4日(木) 午後7時から午後9時15分

場 所 大月市民会館 4階視聴覚室

出席者 委員15名(5名欠席)

天野太文、小俣理美、梶原崇照、小鷹侑子、三枝良光、佐藤茂幸、志村淳、
志村賢二、仁科美芳、新田澄郎、福嶋尚美、星野喜忠、三木範之、武者稚枝子、
山口明秀

【事務局】 上條企画財政課長、横瀬企画担当リーダー、榎本、堀内、山田

1. 星野議長あいさつ

皆さんこんばんは。相変わらずの夜7時ということで、遅い時間にお集まりいただきありがとうございます。季節は立春ということで、昨日は豆まきなど、人によっては忙しかったのではないかなと思います。

大月みらい協議会ですが、スタートしてちょうど1年になります。前回、部会ごとにある程度まとまったところで、市長と市の生きがい創生委員会の方々にお越しいただいて、プレゼンテーションを行いました。これで一つ、区切りが付いたのかなと思いますが、ある意味ではようやくスタートラインに乗ったのかなという感じを持っております。

この会議は、大月の人口問題を含め、大月の地域を活性化して、大月の未来をつなげていくということが目的だと思います。振り返りますと、私たちは20名の実業であられる方を、お忙しい中をお願いして、会議を進めてまいりました。82のアイデアを募り、その後3つの部会を作る中で、82のアイデアをさらに詰めてプレゼンテーションを実施しました。その中には、皆さんの個々のご意見は必ずしも活かしているとは言えないかもしれません。

市のホームページにもありましたが、現在、この総合戦略について、パブリックコメントを求めているところです。このパブリックコメントを求めた後、成案にして、これを議会に出すということになろうかと思います。事務局では、いろいろな兼ね合いの中で、素案を作っていました。中身について、皆さんにご意見をお伺いしていきたいと思っております。

ところで皆さん、市の広報1月号をご覧になりましたでしょうか。毎年1月号には市長との新春対談があり、大月みらい協議会から佐藤先生、志村賢二さん、仁科美芳さん、小俣理美さんに座談会に加わっていただきました。この件については、事務局から私の方に相談がありまして、私の独断と偏見で選ばせていただき、お願いをしたところです。どうかご了解をいただき、皆さん、とてもすばらしい話しをしていただいたと思っております。それでは、会議を始めたいと思いますので、よろしく申し上げます。

2. 議事

(1) 大月市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について

- ・委員から以下のとおり意見等がありました。

【新田委員】

- みらい協議会のメンバーの提案や取組みが盛り込まれていて感心しています。ただ、逆に余所者から見ますと、これはいかがかなと思う部分もあるのですが、それは別として、様々なことがよく取り上げているなということで感心をしております。
- 6 ページの山梨県が作った基本目標の文言の表現について、すべての文言の最後に「創生する」ということで統一していますが、県の「基本目標2 明日の山梨を担う人材を創生する」の「人材を創生する」という部分について、普通は「育成する」という表現の方がいいのかなと思いました。あたかも今まで何もしてなかったような印象を受けました。
- 総合戦略を市民に公表する際には、誰でも分かり易いイメージ図みたいなものを作り、周知した方がよいかと思います。これにより、市民全体が一体となって人口減少・地域活性化に取り組む機運が高まると思います。

【志村（賢）委員】

- いつ頃からこの総合戦略の冊子を作り始めたかにもよるのですが、この内容を見ながら会議を進めたかったなと思います。
- 「大月市の特性」って書いてありますが、大月市の特性について、何を根拠に書いているのか分からない部分があります。また、「大月市らしさ」ということについて答えがないと思います。
- 数値的な目標に根拠が見えません。基本目標1の数値目標は、事業所数は現状維持で従業者数は増加を目指すとありますが、根拠が見えません。今、70歳以上の小規模事業所がどんどん辞められていく中、40代から50代の方が創業する人がいません。事業所数が減るのは納得いくのですが、それを維持していくと書いてあり、さらに新しく3社の企業を誘致することを目標としている。取り繕いになっているのかなと思いました。
- 様々なPRを行っていくとありますが、具体的などんなことをしていくのかという部分が弱く、この会議で、もう少し細かい部分を練らないといけないのかなという危機感を感じました。

【佐藤副議長】

- 総合戦略の基本目標における数値目標とKPIとのつながりがわからないという印象がありました。また、KPIの数値の根拠となるバックデータがあると良いと思いました。

【福嶋委員】

- 全体的には、これが実現できたら素敵な街になるなと思いました。
- 数値はあまりに壮大なものではなくて、皆がちょっと努力すれば出来るというところに設定していくものだと思います。例えば、31ページの学校応援団組織の設置数につい

て、来年度市内の学校は7校となりますが、目標値を2団体ではなく、7団体にしたらどうでしょうか。これは学校長のやる気次第で出来ると思います。

- 基本目標5のKPIについては、基準値は既に高いです。だから現状維持ということではないかと思います。
- 29ページ まちづくりリーダー育成研修会等の参加者とありますが、研修会に参加したが、その後何をしたかが問題だと思います。例えば、まちづくりプロジェクトの発足数の数を増やしたら良いのではないのでしょうか。もし、市でまちづくりの方向性が決まっているのであれば、それを教えていただきたいと思いました。

【小鷹委員】

- 山梨県は健康寿命が第1位ということを知りました。ただ、なぜ第1位なのか謎だそうです。私たちの話し合いの中でも健康のことについてアイデアを出しました。大月市も今後さらに推し進めていただきたいと思います。

【武者委員】

- 健康寿命に関連して、15年から20年くらい前に山梨が健康寿命が1位になったことがあります。今、高齢化が進む中、テレビ番組でも健康について取り上げられています。健康寿命とは自立して長く生きられるということです。健康寿命を長くするということはとても良いことだと思います。15年くらい前になぜ健康寿命が1位になったかということで、山梨大学の先生が考察を述べていました。その1番の理由は「無尽」があるということだそうです。人と話しをしたり、地域のコミュニティがしっかりしていることだそうです。
- 大月は歩く所がなく段差が多い街です。車いすの方、ベビーカーを押す方が苦勞すると思います。今後、まちの整備と一緒に、そのようなところが無くなって、安全に歩ける所があるといいなと思います。

【梶原委員】

- 14ページ ④起業家の育成、創業の誘致において、「改修費や家賃の補助などの起業の支援を行います。」とあります。これは既に決まっていることなのかどうか教えていただきたいと思いました。

(2) 今後の大月みらい協議会の活動について

今後の大月みらい協議会の活動について意見交換が行われ、次年度も継続して活動を行っていくことは決定しましたが、どのような活動を行うのかという点で結論が出なかったため、次回以降話し合うこととなりました。